

学校教育目標	やさしく かしく 元気よく
目指す学校像	・児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校 ・教職員がもち味を生かし、児童と共に授業や教育活動を創り出していく学校 ・家庭や地域社会と共に歩み、協働し合う開かれた学校

重点目標	1 学びを自律化し、情報端末を活用した個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びを実現する 2 特別支援・相談体制を充実させ、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する 3 コミュニティ・スクールとして成長し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する 4 ハード面、ソフト面の教育環境を整え、安心・安全な学校を実現する 5 一人ひとりの教職員が力を発揮し、働き甲斐のある職場を実現する
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に 関する取組	(現状) ○学力・学習の項目「進んで学習に取り組んでいる」の児童肯定的な回答の割合は9割程度である。 ○学級規律が守られ児童がおおむね集中して学習に取り組めている。 (課題) ○学級に数人程度、集中力が維持できない児童が見られるため、個別指導やICTの活用等により、個に応じた指導をさらに進める必要がある。 ○持ち帰ったタブレットを活用して、スタディサプリやドリルパーク等を家庭で効果的に学習に活用できるようにすることが課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、基礎基本の徹底 ・個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの充実	①スクールダッシュボードやドリルパークなどの学習への取組状況をスタディ・ログとして活用して、家庭と連携しながら、児童の学力を定着できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を分析するとともに、市教委のカウンセリング研修を受け、効果的な手立てを設定し、学校全体で探究的な学習の実現を図る。	①学校評価の家庭学習への取組についての調査結果で、児童、保護者ともに肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度 児童91.5% 保護者72.0%) ②学校評価「進んで学習している」の肯定的回答が、昨年度の91.6%以上であったか。	①学校評価の家庭学習への取組についての調査結果で、肯定的回答が児童92% 保護者85%で目標をほぼ達成できた。 ②学校評価「進んで学習している」の肯定的回答が、児童93% 保護者85%で目標をほぼ達成できた。	A	①各学級で学習用端末を活用したドリルパークなどが活用されているが、スタディ・ログとしての活用はまだ研究中である。 ②全国学力・学習状況調査を全教員で解き、問題の分析を行った。市教委の指導主事を招聘して「学力向上カウンセリング学校訪問」を行い、授業改善のポイントについて共通理解を図った。次年度も継続していく予定。
		・安心・安全な学校に向けた、児童一人ひとりへの細やかな特別支援・相談体制の充実	①ICT等を活用した「個別最適な学び」と、教師と児童、児童同士の対面によるリアルな「協働的な学び」を組み合わせた多様な学習活動の機会を創出する。 ②児童が目標設定、解決方法、学習形態等を選択できる授業を展開する。	①1人1台端末を全児童が授業で毎日活用できたか。 ②「学びの指標」探究的な学習の実施状況の肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度81.0%)	①1人1台端末の授業での活用状況の肯定的回答が90%で、目標を概ね達成できた。 ②「学びの指標」探究的な学習の実施状況の肯定的回答が82%で、昨年度を上回ったものの、目標を達成できなかった。	①本校の研修課題「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指した授業公開を全員が年2回以上行うようにする。 ②校内授業研究会や市教委の指導訪問等により、学校課題やICTのより効果的な活用等について教員が学べる環境を整える。	①本校の研修課題「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指した授業公開を全員が年2回以上行うようにする。 ②校内授業研究会や市教委の指導訪問等により、学校課題やICTのより効果的な活用等について教員が学べる環境を整える。
子どもの発達や 心をサポートに関する取組	(現状) ○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで児童の肯定的な回答が、95.7%である。 (課題) ○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで保護者の肯定的な回答が、93.7%であり、児童よりも数値が低い。	・安心・安全な学校に向けた、児童一人ひとりへの細やかな特別支援・相談体制の充実	①校内教育支援センター「Sola る一む」に教職員が常駐し、児童の学習や生活の困難さに対応しながら、教室復帰を支援する。 ②「スクールダッシュボード」を活用し、蓄積した情報をライフ・ログとして、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校評価「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」の児童肯定的回答が昨年度の95.7%以上であったか。 ②「おはようメーター」等、「スクールダッシュボード」の状況について、毎月の教育相談部会で共有することができたか。	①学校評価「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」の児童肯定的回答が97.0%で目標を達成できた。 ②「おはようメーター」の活用状況について、毎月の教育相談部会で共有することができた。	A	①校内教育支援センター「Sola る一む」に教職員を常駐させ、引き続き個に応じた対応を行うことができるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会等で、授業アンケートの活用状況についても共有できるようにする。
		・家庭と連携した特別支援・相談体制の充実	①教育相談日を月2回から4回に増設し、対象案件を全校で共有できる体制を整え、いじめ防止や早期発見に組織的に取り組む。 ②学校行事等を調整し、保護者や地域の来校機会を確保する。	①学校評価「先生は話を聞いてくれたり見守ってくれたりしている」の保護者肯定的回答が昨年度の93.7%以上であったか。 ②保護者や地域の来校機会を月1回以上確保できたか。	①学校評価「先生は話を聞いてくれたり見守ってくれたりしている」の保護者肯定的回答が昨年度の87%で目標を達成できなかった。 ②保護者や地域の来校機会を概ね月1回以上確保できた。	①本年度、月2回から4回に増設した、教育相談日を継続し、保護者からの相談により多く対応できるようにする。 ②保護者や地域の来校機会を、月1回程度は確保し、気軽に相談できるようにする。	①本年度、月2回から4回に増設した、教育相談日を継続し、保護者からの相談により多く対応できるようにする。 ②保護者や地域の来校機会を、月1回程度は確保し、気軽に相談できるようにする。
地域ととも に育つ取組	(現状) ○学校運営協議会において、家庭・地域と連携してできることについて熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくという共通理解が図られている。 (課題) ○「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合は、80%程度である。学校運営協議会で共有した取組を実行し、地域人材のより積極的な活用や、地域行事等で児童が活躍できる取組を推進していく必要がある。	・家庭や地域と協力体制を作り、児童の自律につながる継続的な取組の実施	①本校 Web ページや文書配信アプリ「スクリレ」等による学校の様子の発信や学校公開の実施等により、目指す児童の姿を広く家庭、地域と共有できるようにする。 ②地域行事を積極的に児童に周知したり、授業等に地域人材を活用したりして、学校と地域との連携を強化する。	①学校評価「学校は教育活動の充実・安全確保のためにPTAや地域と連携を図っている。」の保護者の肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度 81%) ②市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合が、昨年度の81.5%以上であったか。	①学校評価「学校は教育活動の充実・安全確保のためにPTAや地域と連携を図っている。」の保護者の肯定的回答が82%以上で昨年度を上回ったものの、目標を達成できなかった。 ②市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合が、97.6%で目標を達成できなかった。	B	①文書配信アプリ「スクリレ」に加えて、Web ページを一層活用し、目指す児童の姿を広く家庭、地域と共有していく。 ②引き続き、地域行事カレンダーの作成・掲示や、地域人材の授業への活用等により、地域との連携を図っていく。
		・創立50周年記念行事に向けた取組の実施	①学校運営協議会を年に3回開き、毎回参加者全員から意見をいただき、熟議の結果を学校経営に生かす。 ②創立50周年記念に向けて、児童に郷土を愛する心を育み、児童が主体となって行う取組を考案する。	①学校運営協議会を年に3回開催し、参加者からの意見等をもとに具体的な取組を行うことができたか。 ②市学習状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的な回答が昨年度の91%以上となったか。	①学校評価「毎日、安心して学校生活を送っている」の肯定的回答について、昨年度の児童93%、保護者94%を上回ったか。 ②施設の不備による事故がなかったか。	①学校運営協議会を年に3回開催し、参加者からの意見等をもとに具体的な取組を行うことができた。 ②市学習状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的な回答が86.7%で、目標を達成できなかった。	①創立50周年記念に向けてできることを学校運営協議会の熟議のテーマとして、地域とともに創りあげていく記念行事にする。 ②創立50周年記念に向けて、児童が主体となって行う取組を考案していく。
教育環境の整備に 関する取組	(現状) ○「毎日、安心して学校生活を送っている」というアンケートで児童の肯定的な回答が93%である。 (課題) ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが重要である。	・学校施設環境を整備し、児童の安心・安全を確保する	①月1回の安全点検を徹底し、不備のあった箇所について、1週間以内に改善する。 ②安全な環境整備に関して適切に予算執行を行う。	①学校評価「毎日、安心して学校生活を送っている」の肯定的回答について、昨年度の児童93%、保護者94%を上回ったか。 ②施設の不備による事故がなかったか。	①学校評価「毎日、安心して学校生活を送っている」の肯定的回答について、児童93%、保護者92%で、目標をほぼ達成できた。 ②施設の不備による事故が数件あった。	B	①月1回の安全点検を徹底し、不備のあった箇所について、1週間以内に改善する。 ②事務職員と連携し、安全な環境整備に関して適切に予算執行を行えるようにする。
		・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた学校行事等の充実	①避難訓練、竜巻を想定した訓練、不審者対応訓練等の改善点等を踏まえた改訂版マニュアルを整備する。 ②課題の解決策について議論する児童主体の会議を開催する。その中で安全な生活の実現に向けた目標を児童自ら設定する。	①学校評価「学校の決まりを守り、交通安全や帰宅時刻に気を付けて生活している。」の児童の肯定的回答が昨年度の95.8%を超えたか。 ②委員会等が中心となって、児童が自ら安全な生活を考える機会が設定されたか。	①学校評価「学校の決まりを守り、交通安全や帰宅時刻に気を付けて生活している。」の児童の肯定的回答が昨年度の96%で目標を達成できた。 ②「安全委員会」の新設し、委員会等が中心となって、児童が自ら安全な生活を考える機会を設定することができた。	①不審者対応訓練、シェルター訓練、シェイクアウト訓練等を通して、引き続き、児童に「自助」の意識を高める。 ②「安全委員会」の取組を全校に広める機会を設定し、安全な生活の実現に向けた目標を児童自ら立てられるようにする。	①学校内の怪我等防止のための対応については評価できる。 ②児童増による教室整備等が心配である。 ③学校の取組が、保護者・地域に伝わりきっていないように感じる。安全委員会等の自助の取組などをもっと周知できるとよい。 ④不審者に対して、小・中学校がより連携して対応できるとよい。
教職員のキャリア形成に 関する取組	(現状) ○各教科等において、ICT(学習用タブレット、プロジェクター等)を効果的に活用した授業実践を推進している教員が増えてきている。 ○校務のデジタル化や効率化が進み、教員がゆとりをもって児童と向き合う時間が増えてきている。 ○学校評価において、教職員自身の働き方に係る項目についての肯定的な回答の割合は、88.4%である。 (課題) ○ICTの効果的な活用について、専門部会で取り組んだ実践や先進的に行っている教員の取組等について、教員に周知し、活用の幅を広げていくことが求められる。 ○全教員がより質の高い授業を目指し、教材研究を重ね、専門性を高めていくことが課題である。	・「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するための、ICT教育推進教員等との打合せや研修会の充実	①「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するために、ICT教育推進教員等の研修の成果を全教員に共有する。 ②校務のデジタル化、日課の変更、行事や会議の精選等により、職員研修や教材研究、学年会等の時間を確保し、授業の質の向上を図る。	①全ての教員が、同じレベルでICTを効果的に活用できるようになったか。 ②学校評価「仕事が充実し、働き甲斐があると感じている」における教職員の肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度88.4%)	①全ての教員が、概ね同じレベルでICTを効果的に活用できるようになった。 ②学校評価「仕事が充実し、働き甲斐があると感じている」における教職員の肯定的回答が97.5%以上で目標を達成できた。	A	①市内最先端の研究校の成果をより全教員で共有できるようにする。 ②日課の変更、行事や会議の精選等をさらに進めることにより、生み出された時間を活用して、職員研修や教材研究、学年会等の時間を確保し、授業の質の向上を図る。
		・教科担任制及び学校課題研修の実践及び研究	①教科担任制や学年内交換授業等により、より質の高い授業を展開する。 ②学校課題研修の充実を図り、島小学校としての「個別最適な学び」と「協働的な学び」の定義づけを行う。	①教科担任制や学年内交換授業等により、授業の質の向上が図られ、学校評価「学校の勉強は楽しく分かりやすい」における児童の肯定的回答の平均値が90%以上となったか。(昨年度89.9%) ②学校課題研修の柱である「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図れるようになったか。	①教科担任制や学年内交換授業等により、授業の質の向上が図られ、学校評価「学校の勉強は楽しく分かりやすい」における児童の肯定的回答の平均値が99%となった。 ②学校課題研修の柱である「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、指導者を招聘した授業研究会を4回実施し、充実した研修となった。	①中学年においても実態に応じた教科担任制や学年内交換授業等を進める。 ②市教委等の指導者を招いての授業研究会を3回以上実施し、3年間の学校課題研修の総まとめを行う。	①中学年においても実態に応じた教科担任制や学年内交換授業等を進める。 ②市教委等の指導者を招いての授業研究会を3回以上実施し、3年間の学校課題研修の総まとめを行う。

